先生増やそう
ゆきとどいた教育
全国署名にご協力を

北多摩東ニュース

2024年度
第８号

都教組北多摩東支部
電話（０４２）３８４・２９４１
ＦＡＸ（０４２）３８４・７９０４
kita-higasi@mvc.biglobe.ne.jp

どうする？どうなる？　先行実施校からの報告

小学校の教科担任制

９月21日、北東支部「小学校の教科担任を考える」学習会」を開催しました。

教科担任制が全区で実施されている新宿支部からの報告と、都のモデル校である小金井市と東久留米市の小学校からのミニ報告がありました。

新宿区では、加配がない中で昨年度から実施が決められました。教科担任制による「メリット」ばかりが宣伝されているが実態はどうなのかを実施校の状況をもとに問題提起していただきました。

「実施した後、どの学級も子ども落ち着かなくなってしまった学校があった」「時間割づくりが大変」「担任している学級で気になることがおきても次の授業に行かないといけない」「規模の小さな単学級では、教員の負担軽減にはならい」などの現場の声が報告されました。

モデル校の場合は、中学校から三年間、教科専門の加配教員がきます。高学年で、教材研究の時間がとれるという報告もありました。

文科省は、来年度中学年まで教科担任制を広げようとしています。もっと議論をする必要があります。

第１に子どもにとってどうなのか。発達段階にあっているのかを考える必要があります。

第２に、教職員全体の長時間労働の削減になるのかということです。

第３に、学校規模や教職員の構成などの違いがある中で、一律に制度をおしつけるのではなく、学校の自主性の尊重されることです。

地域。保護者と共に議論を広げていきましょう。

参加者の声より

あらためて、教科担任制について表に出ている課題、裏にある課題を考えることができました。論点がある程度見えてきたので、とても勉強になりました。（新宿区小学校）

５、６生担任はもちコマが２０以下になり、ゆったりとした雑談が増えました。（東久留米市小学校）

様々なお話しを聞き、結局は、教員を増やすことさええきれば大人も冷静に落ち着いて現場に立てるし、若手職員もじっくり学べて力をつくし、何より子どもがちゃんと発達に応じて教育が受けられて、しっかり成長するのでは…。と思いました。（小金井市中学校）

2025年度概算要求の教職員定数の増減

教職員定数増の合計	7653人
小学６年生の35人学級化	3086人
通級や日本語指導等のための基礎定数化	551人
小学校の教科担任制の推進	2160人
生徒指導担当教師の全中学校への配置	1380人
多様化・複雑化する課題への対応	476人

教職員定数減の合計	13034人
教職員の自然減	7398人
少子化に伴う自然減	5638人
学校統廃合に伴う定数減	1760人
35人学級化に伴う加配定数の振り替え	1305人
定年引き上げに伴う特例定員の廃止	4331人

文科省への聞き取りをもとに作成

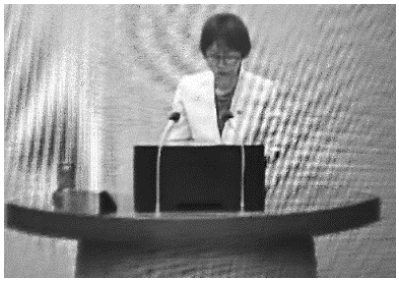
←こんな報道もだされています←
教職員定数は実質減

三鷹市議会が意見書採択
教職員定数増と教職員の長時間労働の改善を求める

○国会及び政府に対し、教育予算を増やして、教職員定数増の実現と、法的規制に基づく長時間労働の改善を一体的に進めるよう、求める。

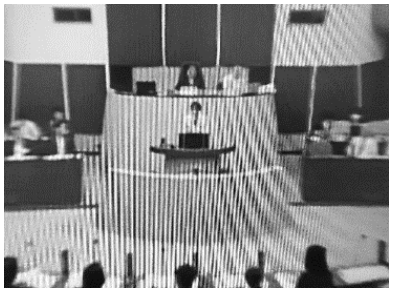
○８月 27 日の中央教育審議会「令和の日本型学校教育～」答申は、基礎定数の改善を先送りし、加配定数増では、習熟度別指導のための少人数指導の実施～などの目的に応じて臨時・非常勤教職員を充てざるを得ず、安定した教員の確保につながらない

○中教審答申は、「学習指導要領の標準授業時数の見直しや、授業の持ち時間数の上限設定も、見送りとなり、現場の切実な声を十分に反映したものとはいえない」



提案した前田議員は、
「深刻な教職員不足を改善するためには、法律を改正し学級編制及び教職員基礎定数を改善し、各学校に配置される教職員の数を増やすことです」
と本会議場で訴えました。

野村議員の賛成の発言
「抜本的対策はまともに働き、まともにくらせる安定した正規雇用をふやすことです。少人数学級をさらに促進して定数をふやすことです。教員が児童生徒に向き合えるように・・」



９月３０日、三鷹市議会本会議で画期的な意見書が採択され、市議会の総意として政府に送られました。
学校現場の切実な声が反映して本会議でこの意見書が採択されたのです。
上記の囲みはこの意見書のポイントです。

せんせいふやそうキャンペーン
全教 HP
QR コードでみてね！

支え合いの都教組へ
都教組 HP
QR コードでみてね！